



ひなどり

園だより 3月号
令和2年2月28日
新潟市立新津第三幼稚園

EQ(こころの知能指数)を高め、みんなで成長

園長 間嶋 哲

自宅の書棚に、『EQこころの知能指数(ダニエル・ゴールマン著)』という単行本が置いてあります。今から約25年前に購入した本で、時折読み返している愛読書です。本の帯(当時)には、次のキャッチコピーがあります。

社会で成功するためにはIQでなくEQだ ～人の真の能力はIQではわからない～

※IQ(Intelligence Quotient) ※EQ(Emotional Intelligence Quotient)

著者が冒頭で描写する光景は、常に私の頭の片隅に残っています。

8月の蒸し暑いニューヨーク。不快な気持ちでバス待ちをしている著者。バスに乗ると、中年の黒人運転手が、客一人一人に気持ちの良い挨拶。走り始めると、左右に流れる街の風景や建物を、陽気に語ってくれる。これが続くと、なぜか気持ちが「不快から快」に変わっていくという話。

さて、子どもたちと日々接するたび、彼ら彼女たちの屈託ない笑顔は、間違いなく私の気持ちを快適にしてくれます。子どもたちは、もしかすると今まさにEQは高いのかもしれません。ところが成長していく過程で、何かの影響でEQが徐々に失われることがあるのかもしれません。

EQを下げず、より高めていくために私たち大人がすべきことは何か、または、してはいけないことは何かを考えたいものです。そのヒントが、この本には存分に満ちあふれています。

たとえば「情緒面で賢明でない親」として、次の3つが挙げられています(P290)。

- ①子どもの気持ちを一切無視する。
- ②放任しすぎる。
- ③子どもの気持ちを尊重せずバカにする。

「そんな親ではない」とみなさんに叱られそうですが、長い年月で振り返れば、そうしてしまった経験が、恥ずかしながら私自身にもあります。親であれば子どもに、「(いずれ)社会で成功してほしい」と思っているはず。そうなるために、これらの教えを心に留めておきたいものです。

私が子どもへの接し方として心がけていることは…。

- ・自分は、この子たちの年齢のとき、こんなに素晴らしくなかったのではないかな。
- ・この子たちが大人になったとき、ほんのわずかでも感謝してくれるだろうか。

このように考えると、子どもと素直に関わることができ、一緒に成長していけます。

令和元年度も、あと一か月あまりとなりました。幼稚園では、昨今のコロナウィルスの影響もあり、マスクのつけ方などを入念に指導しています。自分の心身をしっかりと守りつつ、ほかの人に迷惑をかけない意識を、小さなときから持たせましょう。

